

---

# イジメ

+悠+

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

イジメ

### 【著者名】

Z4378D

+ 悠  
+

### 【あらすじ】

いじめを受けて辛い思いをしてきた。辛い思いしてまでも頑張つてきたこの気持ち。イジメなんか無くなればいいのに…

## (前書き)

これは、イジメに関して書いたものです。  
体験談など入れて書きました。  
いじめのつらさ、これを読んで分かってくれたらいいなあと思いま  
す。

中学1年の時に経験したいじめといつもの。

学校に来たくなるほどのはじめをつけたことがあります。

結構つらくて、雑巾投げられてボール投げられて…

そんな経験はあるでしょうか？

中学1年と言う広場。

入学式があり部活見学があり生徒会の仲間入りになり…

部活見学の時何処の部活にしようか迷つてた自分はなんとなく友達同じ部活に入ることにした。

そこは『女子バスケットボール部』だった。

もともとバスケは好きだったからやつていけると思っていた。

最初の方は17人くらいいたバスケ部部員がいきなり減つていく。

その原因を作つてるのは一人の女子生徒だ。

自分が嫌いな人を部活から追い出して好きな人同士で

部活をやりたいと思ってるような自己中な考えを持った子だった。

この子のせいで6人は部活を辞めることになる…

2006年6月くらいからいじめは始まった。

最初のターゲットは『尾原 由佳子』（おはら ゆかこ）と言つ子だった。

この子とは小学校が同じで同じ生徒会で代議をやつてゐる。  
それで部活もバスケ部ということでお仲良くなつた。  
ところがいきなり部活に来なくなつた。

その理由が

「部活でいじめられてる」と言つてらしい。

その時は気付かなかつたがいじめをしてる張本人は由佳子をターゲットにして  
いじめを始めていたのだ。

そして何日か経ち由佳子は部活を辞めたことをウチに報告して  
くれた。

なぜかはその時に知つた。

いじめが嫌で部活に集中できないらしい。

だれがいじめてるのか聞いてみると良く分からないうらしい。  
影で色々言われてみんなの噂にされてるらしい。

そこからいじめはエスカレートしていった。

次のターゲットは『尾原 滅』（おはら めぐ）のひ  
ちだ。

まさか自分がターゲットにされるとは思わなかつた：

その時期は、こっちでも忙しくてよく先生に呼び出しがされてい  
た。

それが上田に出て

「アイツ部活にねえし」など言われるよくなつた。  
自分は1組で一番バスケ部が多いクラスだつた。

そのため教室でもいじめを受けるようになつていつた。

そのことが原因で毎日のように泣いていた。

智や咲がいつも見守つてくれてたけど泣かないつている方が無理で

いつも影で泣いてた。

その時担任に見られてしまい、

「相談のるから何でも言え」

と言われた。

その時から毎日のように呼ばれ相談に行くようになった。

そしてある事件から今以上にすぐい事になる」とは知らなかつた

かつた

9月の中旬　この学校の大行事でもある文化祭と体育祭がある。そのために色々と準備をしている。

その時代議だつた『塩道　瑛太』といづらは毎回放課後残つて指示とかしていた。

その日だつた。

『いじつくりさん』を4組の女子3人組がトイレでやつていたらしい。ちよつと通りかかつたときに引き止められ中に連れられてこつくりさんをやつてる

場所に訪れた。それが原因で今以上にすゞいじめが始まる。

そんなことは誰も知らなかつた

その日はもう帰りの時間になりみんなで帰る支度をした。

そして月曜日、放課後、友達に呼ばれ学年室に。よく意味が分からず聞いてみると

こつくりさんをやつてた人全員集まつているらしい。やつてなくとも見ていた人も…それで自分も呼ばれた。

先生は学年室に來た人皆の名前を紙に書いて

「これは部活の顧問に伝えます」

そう言い残して皆は解散した。

月曜日、ついに悪夢が始まる。朝、また先生に呼ばれ部活に行けなかつた。

そして皆が部活から帰つて来た時のこと。

女バスの人があんなウチの回りに来た。

そして

「なんで部活来なかつたの？」

「悠のせいに部停になつたかもしれないんだよ?」すぐ嫌味っぽく言われる。

「じめん…」そういつたのに他の人は

「部活来いよ」

「最低だね」

「意味わかんねえ」

そんな言葉をうちにぶつけてきた。

泣きたかつたけどそこは我慢して耐えた。

その日の放課後と次の日からの朝、放課後は部停のため掃除をすることになつた。

ほかにも運動部中心に部停になつたところがほとんど掃除してるところが

ほとんどだつた。

その時自分は左膝を故障していて上手く座れなくて皆みたいに雑巾がけをダッシュで

出来なかつた。

そしてずっと先生に相談してゐる時に

「部活を辞めたい」

「死にたい」

「転校したい」

そんなことも言つようになつた…

いつもは使わないのに、死にたいと言つ言葉を使わない自分がどれほど今の状態が

つらくて自分が壊れてるかが思い知らされる。

そして担任もそんなこと言う人は始めてらしかった。

そしてついに言つた。

「もう部活なんて辞めたい。」

その言葉を先生は聞き逃さなかつた。

「尾原はそれでいいのか？」

その一言で

「いいです。」 そういつた。

ところが

「そしたら尾原が逃げたつてことになるぞ？お前が負けるんだぞ」  
そんなことを言われた。

負ける。その時は別に負けてもいい。って思つてた。  
今の状態がどんなだけつらいか先生は知らないくせに…  
そんな風に内心では先生にハツ当たりもしていた。

そしてまだまだ話し合いをしていた。

「担任から顧問とも話して来い。」といわれ、話しに行こうとした。  
でも、顧問は理科の担当で理科の時間が終わつた後にはなせた。

1時間目に理科があつた日。授業が終わつてから部活の話を切り出した。

その日に話は終わらず何回の何回も話し合いをした。

ついにこっちも耐え切れず体調を崩していた。

それでも、学校を1回でも休むと次の日学校に行きずらくなる。  
だからいつもいつも頑張つて学校に通つてた。

もう何日も何日経つたとき全然話がつかない時に

親が

「もうあんな部活辞めなさい！」といつて担任の先生に電話をした。  
「もう辞めさせますから！」といつて話をしてくるのは聞こえた。  
でも全ては聞こえなかつた。

次の日。朝来た時に学年室の前で担任は待ち構えていたかのようになつた。

教室までの道のりは学年室があつてその後に1組～5組がある。  
だから担任は待つてたかのように居た。

そして

「尾原一ちゃい来い」と言われ、鞄を教室の机に置き学年室に行つた。

そして

「こままで！」苦労さん。昨日のお前の母ひやんの一言で分かつたよ。  
本当にいいんだな

と言われ

「もちろんです」そう言い、その日に退部届けを貰つた。  
この時期、朝読書の時間は文化祭の合唱練習で使つていい。  
だから教室に行つたときは誰もいなかつた。

何処で練習しているのか表を見て行こうとした。  
だけど行きづらくて入り口近くで立ち止まつた。

待つ時間は無くて、立ち止まつた時には笛も歌の練習が終わつた。  
そして仲の良い智と咲を待つて来たら一緒に教室まで行つた。

次の日、退部届けを親に書いてもらい先生に出しに行つた。

「本当にいいんだな」その一言が別に違和感無く逆にうれしくて  
「もちろんです」の一言しか言えなかつた。

そしてその日も理科があつたから顧問に部活を辞めると云つことを  
伝えた

昼休みくらいにまた担任に呼ばれ何かと思い行つてみた。

そしたら

「部活辞めることは皆に伝えた?」とのこと

「まだです」と言つと

「やっぱ辞めるんなら伝えなきやいけないじゃない?

そこで相談なんだけど、どうやって伝えるかなんだけど、選択肢は2つ。

一つは自分が一人一人に伝えるか、もう一つは皆を談話コーナーに集めて

一気に言うか。ただし、集めて言うなら、皆がなんかカウンターしてきた時に

俺は尾原の助つ人になれる。一人一人言うなら、俺は助つ人にはなれない。

どうする?」

その一言はべつに迷いも無く

「一人一人言います。」に決まってた。

「うん。じゃあ頑張れ。お前もすごく強くなつたな」

そういうて話は終わった。

そして一人一人部活を辞めることを言つた。

ある人は

「なんで!?」といつてきた。でもやっぱりいじめが無理だからなんていえなくて

「成績が落ちたから…」にした。

担任にもそれを聞かれて笑われたけど本当のこと言つと今以上になんかがきそついやだつたから。

クラスの皆さんに伝える時。

『中村 美空』(なかむら みそら) イジメをやつてる張本人は

嬉しそうに笑顔を浮かべ

「うん！いいよ！」と元気に言つてきた。

その時の顔を担任は見逃してなかつたみたいだが

そして『高橋 彩』（たかはし あや）は

「えつ！？なんで！？」と驚いてる様子

なんとか成績のことについてことでごまかした。

次は『土屋 志保』（つちや しほ）この人は

「まじ！？」と彩と同じ反応をとつた。

そして『野口 朱音』（のぐち あかね）に伝えた時は

「なんで？先輩には

「ちゃんと言つたの？」みたいな反応。

最後に残るのは『白石 由佳』（しらいし ゆか）この人は話しゃ

すくて

いい人だからすんなりい終わった。

全員に言い終わった時に担任に報告。

そしたらさつきの美空の笑顔について言われた。

ウチ的にどうでもよくて話はまともに聞かなかつた。

だからどんなこと言われたか覚えてはいな。

そしてターゲットであつたうちが部活を辞めたことにすつきりした  
のか

部活は安定したらしく。

ところが3、4人目のターゲット『野口 朱音』と『白石 由佳』  
が目をつけられた。

ウチは部活を辞めしたことにより皆と元に戻り前と同じ様にクラスに  
なじめた。

そんなときには2人がターゲットにされた。

そしてこの2人も担任に相談とかに行つた。

担任もクラスのイジメについてすぐ悩んでおり1組の女子だけ集めて

話し合いになつた。

最初にその場に来ていたのは朱音と由佳で由佳は泣いていた。

そして話し合いになつて担任の先生は色々といい始めた。

そしてウチの話題を持ち出した。

ウチが先生に言ったこと全てを女子みんなの前で言つてしまつた。

「死にたい」

「転校したい」

「引越ししたい」

「今なら普通に自殺できる」

「殺してほしい」すべてみんなの前で言い放つた。

それを聞いた皆がこっちに向いたのは視線で分かつた。

ウチがすべて先生に言つたことはみんなの前で言われた…

なんで言つたのか意味が分からなくそのまままでいた時

「尾原なんか言え、いまこの場を借りて皆に伝えろよ。俺に相談しきたこと全て

副学級長もあるし」

その言葉を言われたとたんに我慢してたのに泣いてしまつて

それを見た先生が

「ごめんね、つらいのに思い出させて」

そういうつてウチの話題は止めてくれた。

話し合いが終わつた後、由佳と朱音と女バスメンバーは残つて少し話し合いをしたらしい。

少ししてから結局2人も部活を辞めて、朱音は女テニにすぐ入つた。

由佳はまだ迷つており、辞めてからもまだ部活を悩んでいた。陸上部に未練があるけど女子一人ではいるのはいやらしい。そしてウチと一緒に入るつって言つて2人で話を進めていた。

自分は女バスを辞めてから少しして陸上クラブに入部した。部活ではないし同じ学年的人はいなくてやりやすかった。

その時はウチも陸上部に入つても良いなと思つていたから由佳とよく話していた。

その話をしている時は3学期でこのクラスとも離れる時だった。思い出として文集を作ることになつて部活に入つていないウチと由佳と男子数名で作業をやつていた。

その時に陸上の話にも持ち上がつていた。

といひが何日かしてから朝来たら由佳がいなかつた。教室に居た男子に聞いてみると学年室に行つたよとのこと。ウチはさすがに行けないから教室でおとなしく待つていた。そして由佳が戻ってきたとき由佳が泣いてどうしたのかきいたら自分の都合で尾原を巻き込むな

とのこと

そのことがありウチは陸上部に入るという夢は壊れた。

数日後。

『小山 麻衣』(こやま まい)と『清水 真由』(しみず まゆ)が部活を

辞めたと言つたことを聞いた。

これで計6人は部活を辞めた。

その後、美空は先生に色々言われたりしたらしい。  
そして教室でも学年でも嫌われるようになつた。  
みんな今でも信用はしていないと言つ噂はよく聞く。

仕返しが来て懲りたかと思い氣や全然で今でも平然といいるあの人。  
イジメしていかなきや生きていけねえからしかたがねえと  
先生にも言われる始末  
自分では自覚していないらしいが

(後書き)

今回は「イジメ」を読んでくださってありがとうございましたがどうぞありがとうございました。

どうでしたか?

これはほとんどが体験談です..

イジメの辛さが分かってくださいましたでしょうか?

自分は辛くて悲しかったです。

でも、それを乗り越えて今の自分があります!

読んでいただき本当にありがとうございました!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4378d/>

---

イジメ

2010年10月31日14時00分発行